

大規模災害訓練（BCP訓練）を 実施しました

平成27年9月18日付 岐阜新聞

平成27年9月12日（土）に、災害訓練を実施しました。

大規模な訓練は、今回が3回目となります。
今年度は3Fフロア（回復期リハビリテーション病棟、リハビリテーション科）と災害対策本部を対象とし、約100名の職員が参加して行いました。

訓練では南海トラフ巨大地震が発生したと想定し、患者さんの安全確保や緊急処置の実施、そして関係部署がスムーズに連携できるかを検証しました。

非常に多くの課題が見つかりましたので、今後はそれらを一つひとつ検討し、対策をとっていきたいと思います。

災害はいつ、どこで発生するかわかりません。だからこそ普段からの備えや訓練が必要です。

当院では地域の方々が安心して暮らせるように、今後も災害に強い病院をめざして取り組んでいきます。



患者役のけがの状態などをチェックする職員ら
岐阜市八代、岩砂病院
・岩砂マタニティ

医師ら大地震に備え

岩砂病院・岩砂マタニティで訓練 患者移動、連携を確認

岐阜市八代の岩砂病院・岩砂マタニティで、大地震の発生に備える訓練が行われ、職員が対応をシミュレーションした。
訓練は、外来やリハビリ訓練中の患者が多い午前11時に震度6強の揺れがあり、電気や水道などが停止したと想定。医師、看護師、理学療法士や患者役の職員ら計約100人が訓練に当たった。
職員は安全な場所に患者を集め、けがの状態などを確認。トイレで転倒した患者を助けたり、寝台付きの浴槽で入浴していた患者を

移動させたつもりもした。科のある近隣の医療機関の対応力を高めたいと同病院では今後、外間と連携を図り災害時としている。（井上愛）